

---

# 桜吹雪

真田火澄

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

桜吹雪

### 【Nコード】

N6509C

### 【作者名】

真田火澄

### 【あらすじ】

なんて事はない、かなり短いSSです。桜の下で出会った女の子と男の子の話。

散れ  
舞え

桜吹雪

「いつも此処にいるの？」

いつも桜の下に座って桜を見ている君。  
思い切って声をかけてみた。

「春だね。この桜が咲いてる時だけ」

「この桜、綺麗だね」

君は手を伸ばして落ちてきた桜の花びらを掴む。  
ふと、君の髪が目に入った。

桜と同じ色をした、綺麗な髪。

「君の髪も綺麗だね」

「春だね。夏になれば元に戻すよ」

君は同じ言い方をして髪をいじった。

僕はそっとその髪に触れてみる。

サラサラとした綺麗な髪。

「すごく綺麗……元の色に戻すなんてもったいないよ」  
「ありがとう」

君はニコツと笑って僕を見た。  
僕も笑みを返す。

次の日も此処で会う事を約束して、僕はそこから立ち去った。

けれども、神様はとても残酷な決断を下した。

次の日。

その場所に行ってみると、人だかりができていて桜の木がぼつさり切られた。

そして君の姿は人だかりの中の何処にも無い。

——君は何処に行ったの？——

ふと、桜の木に群がっている人達が見つめているモノを見た。

桜の木の下にいたのは、無惨な姿になった君が倒れていた。

白い肌は君の血で真っ赤に染まり、あの綺麗な桜色の髪はぼつさりと切られていた。

——誰が君を殺したの……？——

——そこにいる人達に殺されたの……私がずっと此処にいたから……邪魔だから……——

君の声が聞こえたような気がした。

そこからの記憶は曖昧。

ただ分かるのは、僕が君の仇を取ったんだ。

桜の木の周りの土は、桜色より濃い紅に変わった。

— e n d —

**(後書き)**

とてもとても短い話にお付き合いいただき、  
誠にありがとうございます。

『桜吹雪』は、

このツールズを使うに当たってのテストのようなものですが、  
いかがでしたでしょうか？

また何かアップしました時は、  
懲りずにまたお付き合いくださいませ。

でわ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6509c/>

---

桜吹雪

2010年10月27日10時06分発行